

第13期武藏野市環境市民会議 第6回 にあたって、資料のAiによる読み解き
(参考資料)

鈴木雅和

本日の会議に提示される資料について、内容相互の読み解きが難しく、全てに目を通すには時間がかかるので、私が利用しているChatGPTの「武藏野市長期計画アシスタント」に読みもらいました。出席者のみなさまの読み解きと照らし合わせてみてください。
以下の出力は資料をアップロードして、質問を打ち込むだけで約2分間の作業です。
このような単純作業にAiを利用することはもっと行っていいような気がします。

資料1_第五期武藏野市環境基本計画の中間評価について.pdf

PDF

資料2-1_市民アンケート調査結果（速報版）.pdf

PDF

資料2-2_事業所アンケート調査結果（速報版）.pdf

PDF

資料3_環境方針別施策評価.pdf

PDF

資料4_個別事業の実施状況.pdf

PDF

資料5_環境指標の状況.pdf

PDF

環境市民会議の本日の議題として、アップする資料がありますが、内容があまりに多く、パラメータ相互の関係を読み解くのが難しいです。まず、これら資料の読み解きを提示した上で、今後の環境施策において課題とすべき重点事項を読み解いてください。

武藏野市長期計画 都市基盤担当委員 アシスタント の発言：

ありがとうございます。アップロードされた以下の6点の資料を精査し、全体を読み解いた上で、今後の武藏野市環境施策において**重点的に課題とすべき事項**を提示いたします。

 **【資料一覧】**

資料名 主な内容

資料1 環境基本計画（第五期）中間評価の概要

資料名 主な内容

- 資料 2-1 市民アンケート結果（速報）
 - 資料 2-2 事業所アンケート結果（速報）
 - 資料 3 環境方針別施策評価（定性的）
 - 資料 4 個別事業の実績一覧（定量的）
 - 資料 5 環境指標の状況（定量的モニタリング）
-

❶ 総合的な読み解き（主要な読み取りポイント）

1. 【施策の実施状況】—— 豊富で多様、評価も概ね好意的

- ・ エコ re ゾートの活用やイベント（環境フェスタ等）は通年開催へ移行し来館者 10 万人に達する成果を記録【資料 4】
- ・ SNS やワークショップ、Youth フォーラム、気候市民会議など、多様なアプローチで啓発活動を展開【資料 3・4】
- ・ 「むさしのエコアクション」配布やエコポイント事業など、行動変容を促す取り組みも進展【資料 3】

▶ 量・質ともに施策展開は活発であり、行政としての実行力は非常に高い

2. 【市民・事業所の意識と認知】—— 評価は一定だが“知られていない施策”が多い

- ・ 環境施策に対する満足度は**「30%前後」止まり**（市民アンケート：資料 2-1、指標 0-1：資料 5）
- ・ 市民の約半数は「知らない施策が多い」「環境情報は届いていない」と回答【資料 2-1】
- ・ 事業所も「内容を知らないため無回答」が多く、エコ事業への関心の偏在が顕著【資料 2-2】

▶ 施策の存在・成果が広く市民・事業所に認知されていない=「届いていない環境政策」

3. 【定量的成果（環境指標）】—— 改善傾向はあるが目標未達の項目も多い

指標	現状	備考
家庭 CO ₂ 排出量（目標 79 千 t）	201 千 t (R5)	進捗はあるが未達【資料 5】
ごみ排出量（目標 588g）	585g (R6)	目標付近で推移
緑化施策満足度	57.6%→減少傾向	かつての水準より低下
啓発満足度	28.9% (R6)	改善見られず停滞
プラごみ比率	増減を繰り返す	安定削減には至らず

- ▶ 実施量に比して、成果指標の伸びが限定的=効果の可視化と対象者層の戦略的選定が課題
-

4. 【対象者層の偏り】—— 若年層・事業所への浸透が薄い

- ・ アンケート回答者は高齢層が中心で、若年層（20～40代）からの声が薄い【資料2-1】
- ・ 事業所アンケートでは農業・小規模製造業などの実質的な声が拾えていない【資料2-2】
- ・ エコ re ゾートの認知度も「来館者には浸透」「非来館者は知らない」が分かれる【資料3】

- ▶ 施策の“リーチできていない層”を明確にし、戦略的な浸透策が必要
-

🔍 【今後の環境施策における重点課題】（根拠に基づく提言）

◆課題①：環境施策の“認知度格差”的是正

現状の問題

認知者と非認知者の二極化

根拠

資料2-1・2-2、市民の6割以上が「知らない施策がある」

エコ re ゾートや冊子の評価は高いが“存在を知らない層”が多い

資料3の評価+資料5の満足度

✓ 提言：

- ・ 「施策の見える化」（動画、SNSショート動画など）と「ターゲット別広報」（子育て層・若年層向け）は必須
 - ・ 通信発信は双方向化すべき（QRコードで即感想・意見募集等）
-

◆課題②：若年層・事業所の意識醸成と参画拡大

現状の問題

若年層の回答率が低く、関心・参画が薄い 資料2-1回答分布

根拠

事業所アンケートでは関心のない業種が顕著 資料2-2で無回答率が高い

✓ 提言：

- ・ 学校や子育て支援施策と連動した「体験型」「報酬型（例：エコポイント）」施策強化
 - ・ 事業所には「業種別支援・PRメニュー」を整備して、参加のハードルを下げる
-

◆課題③：成果指標と施策展開の“ギャップ解消”

現状の問題

根拠

来館者・事業数などは増加しているが、満足度や数値改善に乏しい

資料 4・5 の対照関係

指標に表れにくい成果が多く、PDCA が難しい

資料 1 の課題整理にも記載

✓ 提言 :

- ・ 指標の再設計（「短期成果＝行動」「中期成果＝改善傾向」）
- ・ 市民の「行動実践率」や「変化実感」などを計測指標に追加（アプリ・Web 調査導入）

◆課題④：部局横断・連携による統合的環境施策の推進

現状の問題

根拠

子育て・教育・高齢・都市整備・産業施策と環境政策の連携が弱い

各資料に分散的に実施事業が存在

分野横断型の施策（例：福祉×環境、防災×環境）による波及効果が不十分

【資料 1】

✓ 提言 :

- ・ 「環境副テーマ」として、他分野事業に環境目標を付加（例：子どもワークショップに SDGs を必須要素に）
- ・ 部局ごとに「環境行動 KPI」を設定し、政策横断型モニタリングを行う

✿ まとめ：読み解きの全体像（図式）

【施策の実施】——► 多様に展開中（量・質とも充実）



【市民・事業所の認知】——► 不十分（認知度格差・対象者の偏り）



【環境指標の進展】——► 限定的（啓発満足度などは停滞）



【今後の課題】

- ▶ 認知度の向上（特に若年層・事業所）
- ▶ 成果指標の精度向上と行動評価
- ▶ 他分野との連携強化（全府的環境政策）